

福島正則奉行人連署状（常和寺文書）解説文は最後の頁にあります

## 備北の修験寺院の古文書

福島正則は元和五年（一六一九）六月に広島藩主の地位を改易され、関係文書も大半が散逸しました。広島県内でも福島氏の文書を伝えているのは、僅かに一、二の社寺に過ぎません。ところが、近年、備北の修験寺院常和寺から、関係文書が二通発見されました。上欄の福島氏奉行人連署状が、そのうちの一通です。領内銀山の祈禱のため、修験の円光房が<sup>おおかね</sup>大峰山に入峰することになり、福島氏が山々の「老かねほり中」にまで、初穂料<sup>はつほ</sup>の差し出しを命じたものです。ただ、この連署状では、二、三の不自然さが認められます。例えば、宛所の部分が切断されており、付年号も文字が大き過ぎます。差出人の上月助右衛門尉の名前や花押も、他の文書とは幾分異なります。しかし、この文書がたとい作爲されたものであっても、浅野氏入封以前<sup>あさの</sup>の作成と考えられますから、新しい意味を読み取ることができそうです。大峰入峰の費用を捻出する円光房の姿、近くの三玉銀山の産出量が減少している現状、銀山で働く「かねほり」らの中に、修験道がそれほど深く浸透していない様子などです。

（研究員 松井輝昭）



## 古文書解読講座について

県立文書館では古文書解読講座（入門・中級）を昨年度も開催しました。

入門講座は、初心者の方を対象に、中級講座は入門講座を修了した方を対象に、それぞれ十二回開講されます。

一昨年度からは中級講座修了者によって結成された古文書同好会も活動を始めました。

昨年度の受講者と古文書同好会のメンバーの方から感想を寄せていただきました。

### 古文書解読入門講座に参加して

双三郡三和町 佐藤省三

私が古文書の世界に惹かれたのは、「元禄十四年十二月十四日 浅野内匠頭 家来共」と達筆で書かれた古文書を見てからである。

いつの日か、すらすらと読めるようになりたい、そうした思いが強いあこがれになった。町の教育委員会より、古文書解読講座の案内を受け、長い間の夢が実現するかも知れない、そんな思いに駆られての入門だった。

自宅から文書館まで、バスと電車を乗り継いで、片道三時間から四時間程かかる。しかし、一生懸命指導して下さいる諸先生から、い

ちばん知りたかった事を学んで帰る私には、古文書への余熱はさめやらす、長い車中も習ったばかりのテキストを開いて読んだ。日常生活の中では、これ程の時間はとり難く、むしろ幸いだったと感謝している。

だが、私にとって、やはり古文書は難解なもので、谷川を渡り、岩をよじ登る登山家のような気持ちにさせられる。一字が読めず、二日も三日もいらだちながら、史料を読みヒントを得て、字典にその字を引きあてた時、谷川のせせらぎのような、静かな充実感が溢れてくる。古文書に親しむ、まだ、そんな心境には程遠い私だが、漸く一生懸命打ち込む事ができるものを見つけたような気がする。

昨秋の「江戸時代の村方文書」展を見た時、破損したり、変色してよれよれになった古文書が何かを訴え、語りかけているようで、展示室を出ると、寂しい怒りのようなものが込み上げてきた。一日も早く、古文書を身近なものとして、親しむ事ができればと思っ

### 古文書解読中級講座に参加して

安芸郡府中町 栗栖徳政

私達がこの一年間に受講した教材は、江戸

時代の広島における町方の文書でした。毎月一回の講座を受け、先生の懇切丁寧な指導のお陰にて、講座生一同は回を重ねる毎に、著しい解読力の上達進歩をなしました。私もこれに負けじと益々向学奮発心を起し熱中するようになりました。同じ講座の皆さん方は毎回の受講を楽しく済まされて、帰途につかれる各々の顔には、平和で健康で今日も勉強できたことの感謝と喜びと満足感が表れていらつしやいます。その面持ちを見受けて、同道の私も頼もしい気持ちになり、文書館前の新緑薫る赤煉瓦道を、赤い夕日を背にして、趣味のアカordeイオン曲をふと思い出し、靴音に合わせて口笛を吹きながら帰る今日此の頃です。この楽しくて大変有益であった講座の修了後は、古文書同好会に入会し、尚一層研鑽に努め、前記の勉強を生かし、私家蔵古記録等を解読し、地域史の資料としても役立てたき所存です。

### 古文書同好会に参加して

佐伯郡大野町 中嶋絹江

古文書中級講座受講も終了に近づくにつれこのまま「同好会」として続けたいという受講者の要望に先生方の助言もいただき適切な



入門講座修了式の風景

指導者もおられたことから昨年七月金岡照会長を中心に発足した「古文書同好会」も間もなく一周年を迎えます。

中級講座より読み続けていた心学者宮本愚翁おちの日記を本年三月までに終え、四月より旧沼田郡相田村横山家文書「役用諸控帖」の解読練習に入りました。

宮本愚翁の筆跡と文章に馴染んだ頭には形式や支配が文言に表れている村方文書は戸惑うばかりで馴れるまで時間が掛かりそうです。愚翁の日記では慶応元年生まれだった祖母の昔語りにも重なるところも有り、懐かしく学習

いたしました。

会員も大竹市より福山市、県北より島嶼部と多岐にわたり、それぞれの地元で学習しておられる方も有り、地元の人でなければ判らない事など教えていただき、目から鱗の落ちる思いをしております。

今迄は解読のみで余裕がありませんでしたが、一周年を迎えるに当たり、学習のみでなく、会員の方々と親睦を図りたいと思います。

いつも温かく的確な助言を下さる文書館の皆様にご心より御礼申し上げます。今後共よろしくお願い致します。

### 『広島県移住史』の刊行

広島県では、昭和六十三年以来、『広島県移住史』の編さんに取り組んできましたが、平成三年三月の『広島県移住史』資料編の刊行に続き、平成五年十月に通史編を刊行しました。

この二つの書物は、明治十八（一八八五）年のハワイ官約移民から戦後の海外移住に至るまで、また、移住先は、ハワイ・北米・中南米・オセアニアからアジアに至るまで網羅

しており、広島県民を中心としながらも日本人の海外移住の歩みが概観できる構成となっています。

通史編では、写真を多数（口絵三二枚・本文一五七枚）掲載しており、移民の状況の一端がウィジュアルに再現されています。

文書館では、移住史編さんにあたって、海外から日本人会文書などを、外務省外交史料館から移民関係外交記録を、そのほか県の内外から資料を収集しました。その分量はマイクロフィルム九三リール（約九万コマ）に及んでいます（ほかに購入した邦字新聞マイクロフィルム三五六リール）。これらの複製資料は、所蔵者の許諾の得られたものから皆様方に利用していただくことにしています。

#### 広島県移住史 資料編

A5判 九九八頁

価格 六七〇〇円

#### 広島県移住史 通史編

A5判 七二六頁

価格 五三〇〇円

（いずれも第一法規出版が販売。書店に申し込めば入手できます。）



〈古文書への招待〉

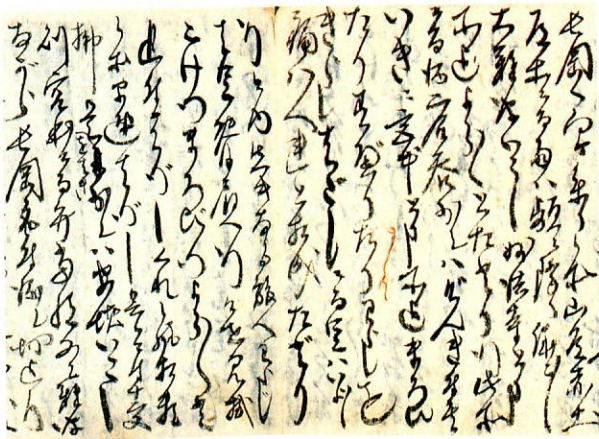
神保屋八郎太の道中日記

文書館に寄託されている海田市・千葉家文書に、「道中安楽記」と名付けられた天保九年（一八三八）の四冊にわたる道中日記があります。作成者の記載がなく、誰のものか判然としませんが、山陽道海田宿で酒造業を営み、幕府の書状や荷物を継ぎ送る「天下送り」という公用を勤めるとともに、上級武士の宿泊をも受け入れていた神保屋（千葉家）の八代目八郎太（当時二十代の若旦那であったと思われま）か、分家中神保屋恭平がその作者と思われる。八郎太と恭平は、その年の三月二十三日、一生に一度という遠出の旅に立したのです。

地図のように、彼らは、四国の道後を皮切りに、金毘羅宮へ参詣、多度津から大坂まで船で行き、そこから自らの健脚を頼りに、まず京都から北陸道に出て新潟まで東に向かいます。つぎに善光寺、日光東照宮と廻り、さらに奥州に入って松島・金華山を見物したところで帰路の途につき、江戸で二十日ほど滞在した後、東海道を上って伊勢神宮に参拝しています。その後再度京都見物をした後、大

坂で我が家の「大変」を聞き及ぶに至って、ようやく八月八日海田市へ帰りました。この旅路は約半年間、一六一日にも及び、二人は、名所・旧跡の見物や寺社参詣にとどまらず、温泉では旅の疲れをいやし、各地で名物料理を食し、気儘な旅の生活を送っています。

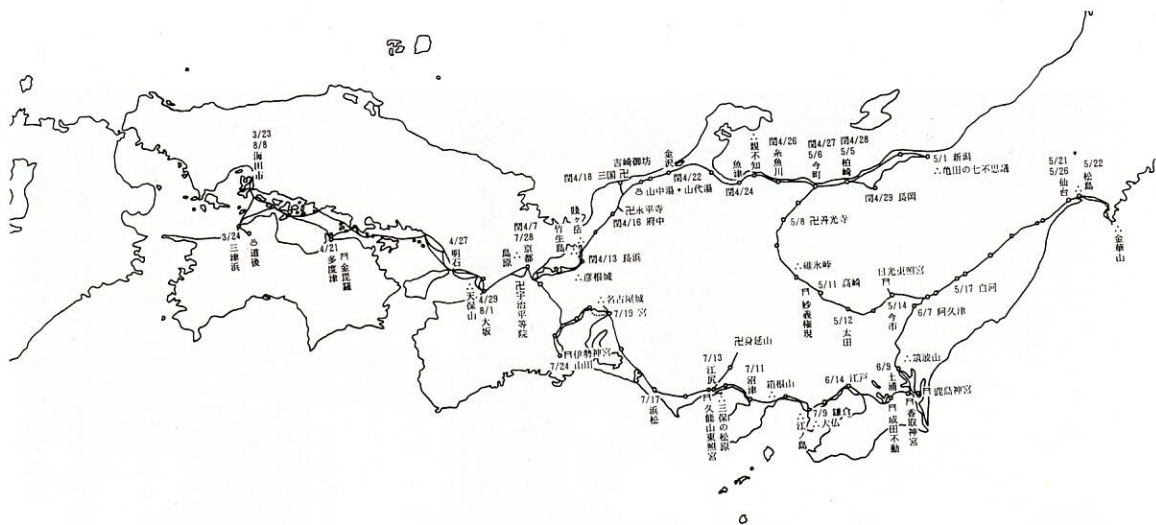
当時街道はかなり整備されていたとはいえ山道や砂混じりの道など難所も多く、時には風雨について先を急ぐこともあり、また、道



千葉家文書「道中安楽記」

を間違えて引き返したり、盗難にあったり、八郎太たちは行く先々で困難を極めながらも歩を進めています。写真とその解説文は越後長岡に向かう途中での苦難の様子です。しかし、それだけに、各地の名所で目の当たりにする景色は、二人にとって格別のものであったことと思われま。松島湾の北東、富山に

長岡へ向ケ参り候所、山道赤土  
道等二而、雨ハ頻ニ降り、誠ニく  
大難儀いたし、妙法寺と申  
所迄ようくとたとり行、此所  
二而酒二合吞、少シハげんき付、其  
いきニ宮本と申所迄まろひ  
たり、すべりたり、(草鞋)  
わらしを  
きらしはだし二而、足ハいよく  
痛ハへれと相成、たどり  
行候内、先キなる旅人わらじ  
壺足背負行候を見掛、  
こけつまろびつ、ようくと  
追付、はづしくれ候様相頼  
候所、早速はづし呉候ニ付十二文  
払、是をはき、少シハ安堵いたし、  
則宮本二而弁当給、又々難儀  
ながら長岡取付渡シ場迄行



登った二人は、松島の絶景を次のように記しています。「寺の庭前<sup>より</sup>松しま八百八しま目の下二見おろし候所、誠二間シニ増り、取りも不<sup>な</sup>直此寺の泉水築山同様ニ御座候、其絶景ハ中々絵ニもか、れ不<sup>し</sup>申候、実ニ松しまの景ハ富山ニ有<sup>こ</sup>之とハ能クも申せし事よと暫らく時の移ルも不<sup>お</sup>覚見とれ居申候」。

二人は、「道中安楽記」に、行程順に通過・宿泊した町や宿の印象、およその家数、まわった名所・旧跡・社寺の由来などをこと細かに記しています。その中でも、とりわけ旅行先で興味を抱いているのは遊女町です。当時遊女町は、江戸・大坂・京都といった大都市に限らず、城下町や港町、宿場町などいたるところの地方都市にも栄えていました。たとえば、新潟の遊女・芸子の風体を、「(遊女の)いしよ<sup>(衣装)</sup>う等もよろしく、きりうも皆々よろしく候得共、都而皆々ひつはり<sup>(器量力)</sup>しました<sup>(島田)</sup>にて、かんざしも一式本ならでハさし居不<sup>(粋)</sup>申候、実ニすいな風体ニ相見申候、芸者、何レモ三味せん達者、きたひきかたり等いたし、都而当所の芸子ハ皆々手者と相見申候」と、実にいきいきと描写しています。

また、芝居や相撲好きと見えて、仙台では「角力ハなニおふ稲妻、黒岩を始段々強キ上<sup>(名)(負)</sup>」

取り有<sup>レ</sup>之事故、何さま能キ折なれハ一兩日ハ逗留ニ相成候而も「見物したいと思ひ立ち、なかなか始まらない初日を「今一日之事ニ而角力を跡ニして立行候も不本意残念」、「今日社角力見物よとこぶしを握り」、今か今かと待ちわびながら、その間を城下見物や、宿で近所の人々と囲碁に興じて過<sup>こ</sup>してしています。ようやく初日を迎えた相撲場で、二人は棧敷席を取り、たくさんのお酒や弁当を食べながら十分に楽しんでいきます。裕福な町人の旅は、日常生活から脱却した生命の洗濯であり、惜し気もなく金銭を遣ったことをここからうかがうことができます。

今年の収蔵文書展では、「江戸の旅人たち」というテーマで、「道中安楽記」などの古文書を通して、江戸時代の庶民の旅の様子にスポットを当てますので、ご期待ください。

(研究員 西村 晃)

収蔵文書展

江戸の旅人たち

10月24日(月)～12月24日(土)

県立文書館展示室にて 入場無料



## 「地域社会と文書館」について考える

### 行政文書・古文書保存管理講習会より

毎年秋に当館が開催している行政文書・古文書保存管理講習会は、今年で第五回目となります。昨年度は、九月六日(月)に広島県情報プラザにおいて開催し、県内各市町村の文書事務担当者や文化財保存・史誌編さんの担当者など百五名が参加されました。

午前中は、「地域社会と文書館」と題し、



藤沢市文書館の館長高野修さんに講演していただきました。

神奈川県藤沢市文書館は、市史編さん事業を経て、昭和四十九年に設立された、市町村立の文書館としては全国の先駆けで、地域の古文書の保存のみならず、現在は市役所の現用文書の管理も行っているということです。講演においては、市史編さんから文書館設立の過程で一貫して尽力されてきた高野さんの豊富な経験をもとに、将来の文化的・歴史的価値を有する古文書や行政文書の保存の重要性について熱っぽく語っていただきました。たとえば、土蔵に保管されていた明治以降の旧役場文書が、土蔵の解体とともに焼却され、そのために市史を編さんしようとするときに、江戸時代よりもむしろ明治以降のことの方がよくわからないといった弊害が出てきたというお話は、他にもよく耳にすることだけに身につまされる思いがします。

また、文書館が設立される際には、市役所内のすべての課をまわって、公文書の作成や保管について担当者と話し合ったことや、現在の藤沢市では、各課が行政資料を刊行しようとする際には必ず文書館長の許可を得なければならぬシステムとなっていることから、

行政資料の収集がスムーズに行えることなど、役場の文書事務の上で参考になるような事例も紹介していただきました。

午後の講習会では、行政文書と古文書の分科会に分かれ、次のとおり事例報告や講習を行いました。

#### 〔行政文書分科会〕

「事例報告・庁舎改築と文書保存」

坂町総務課 中村政愛

「情報公開制度と行政文書」

県民情報室 武井守正

「行政文書・行政資料目録の作成とコンピュータ利用」

県立文書館 安藤福平

#### 〔古文書分科会〕

「事例報告・町史編さん事業と資料保存」

千代田町史編さん室 六郷 寛

「古文書保存の科学」

県立文書館 松井輝昭

「古文書目録作成の実務」

県立文書館 西村 晃

今後当館では、この講習会を、広島市以外の県東部や北部でも開催するようにし、歴史的に重要な古文書や行政文書の保存について理解を深めていただきたいと思います。

### 寄贈・寄託古文書一覧

年度	文書名等	推定点数	所在地等	内 容	備 考
平成2年度まで	竹内家文書	10,000点	東広島・吉川	庄屋文書	寄贈
	平賀家文書	5,000	黒瀬・上保田	庄屋文書	寄託
	橋本家文書	15,600	尾道	商家文書	寄託・移管
	八田家文書	15,000	佐伯・玖島	国会・銀行・地主関係文書	寄託
	芸北町役場文書	18,000		旧村役場文書・山県郡国郡志ほか	寄託
	伊藤家文書	5,000	佐伯・永原	地主文書	寄託
	県議会事務局文書	950		戦前期県会議事録類	寄託
	その他	36,780		76件	
計	106,330		83件		
平成3年度	渋谷家文書	267	尾道	商家文書(戦国～近世初期)	寄贈
	秋山家文書	3,000	甲奴・有田	庄屋・戸長・議員文書	寄託
	(株)広島銀行「創業百年史」資料	1,600	広島	書類・写真等 看板・絵・印字器等	寄託
	延藤家文書	10,000	府中市・出口	地主文書	寄託
	その他	175		8件	
	計	15,042		12件	
平成4年度	福原家文書	3,000	東広島・重兼	庄屋・戸長・村会関係文書	寄託
	宇都宮家文書	3,000	広島・矢野	庄屋・戸長・県会議員文書	寄託
	その他	550		8件	
	計	6,550		10件	
平成5年度	御調郡奥村役場文書	6		海軍関係文書	寄託
	大知家文書	17	大竹・玖珂	組頭文書	寄託
	檜崎家文書	2,500	福山・中島	庄屋・戸長文書	寄託
	桑原家文書	96		武家文書(広島藩士)	寄贈
	小野家文書	900	向原・坂	庄屋文書	寄託
	川口家文書	2	三原	屏風(豪商)	寄託
	中戸家文書	1,000	府中市・広谷	村議会関係・編纂物・収集文書	寄託
	計	4,521		7件	
合計	132,443		112件		

**お願い** 広島県立文書館では、広島県に関する行政文書や行政資料、古文書、郷土資料を収集して保存しています。  
 これらに関する情報をお持ちの方、寄贈・寄託していただける方はご連絡ください。



平成5年度の主なできごと

- 5月2日 書庫燻蒸（5日まで）
- 6月10日 第1回地方調査員会議
- 6月12日 古文書解読入門講座開講（11月まで 毎月2回）
- 7月1日 平成4年度事業年報発行
- 7月13日 安田女子大学学外古文書学実習（学生43名）
- 7月15日 古文書解読中級講座開催（翌年6月まで 毎月1回）
- 9月6日 行政文書・古文書保存管理講習会開催



収蔵文書展の風景



開館5周年記念講演会の風景

- 9月21日 文書館だより第3号発行
- 10月1日 収蔵文書展「江戸時代の村方文書―村の生活と文書―」開催（12月11日まで）
- 10月2日 開館5周年記念講演会  
下向井龍彦「藤原純友の乱の虚像と実像」  
上横手雅敬「芸備の源平時代」
- 10月20日 『広島県移住史 通史編』刊行
- 10月25日 第2回地方調査員会議
- 12月4日 郷土史講座 西村 晃「村の生活と文書」
- 12月13日 資料寄贈者・寄託者感謝状贈呈式

利用案内

- 開館時間  
月～金曜日 9時～17時  
土曜日 9時～12時
- 休館日  
日曜日、国民の祝日・休日  
年末年始（12月28日～1月4日）
- 交通機関 JR広島駅から  
広島港行バス：広電前下車徒歩7分  
宇品行路面電車（紙屋町経由）：広電本社前下車徒歩7分
- 駐車場 広島県情報プラザ内駐車場（有料）

広島県立文書館だより 第4号

平成六年八月二十二日発行  
編集発行 広島県立文書館  
広島市中区千田町三丁目七―四七  
電話 082―2445―8444  
印刷 文化印刷株

【表紙文書解読文】

一 領内銀山之為祈禱  
此日光房大ミね  
入被成候、山々之  
下代老かねほり中  
まで、相応之御  
はつを馳走尤二候、  
以上、  
大崎豊後（花押）  
慶長拾六年  
三月吉日 上月助右衛門（花押）